

### 「ちからの経営」設計書の策定事例①

福岡県中小企業団体中央会は、経営理念、企業文化、技術・ノウハウ、ネットワーク等、無形の「ちから」を活用した企業経営を「ちからの経営」と呼び、これらの「ちから」を活かした取り組みを「ちからの経営」設計書にまとめ、企業内外に開示する取り組みを支援しています。今月号からは、平成22年度に「ちからの経営」設計書を策定した企業の方に、取り組みに至った動機や、作成のプロセスで感じたこと、成果等についてインタビューした内容を紹介していきます。

今回は、空調設備の設計・製造・設置等を行っている津福工業株式会社（久留米市）の津福一宏代表取締役社長にお話を伺いました。

#### 「ちからの経営」設計書に取り組もうと思った動機

「ちからの経営」設計書については、久留米市のメールマガジンを見て、中央会が支援している事を知りました。

当社では、これまで社長以外の社員が会社全体の事を考える機会はありませんでした。また会社のPRができる、つまり会社の「強み」を十分に説明できる社員がいない、不足しているのが現状です。

また若い従業員は発想力が豊かですが、そのバックグラウンドとなる、知恵や経験に乏しく、ベテランの従業員は知恵や経験は豊富ですが、

新しい取り組みには消極的な面があります。これらの若手とベテランの「強み」を活かし、「弱み」を補完する関係の構築も課題としてありました。

そこで、「ちからの経営」設計書の策定を通して、①社員に会社全体のことを考える「きっかけ」をつくる、②当社の見えない「強み」、「弱み」を明確化（見える化）し、会社のPRができる社員を育てる、③若手社員とベテラン社員が共同でプロジェクトを進めることで、若手社員の成長及びベテラン社員の刺激となること、以上を主な目的として、当プロジェクトを進める事を決めました。



「ちからの経営」設計書

## 「ちからの経営」設計書策定のプロセスについて

設計書策定のプロジェクトメンバーは、若手社員が2名、ベテラン社員が2名、私も含めた5名としました。

選定基準は「やる気がある人」とし、そのレベルアップを図る事を主眼としました。この基準は結果として良かったと思います。若手社員にとっては、既存業務に加え少なからぬ負担となる作業でしたが、プロジェクトを進める内に「目の色が変わってきた」ように思います。ベテラン社員も若手社員の熱意に刺激を受け、積極的にプロジェクトに参加するようになりました。

このようなプロジェクトに取り組むのは当社にとって初めての事でしたので、専門家の方に様々なフレームワークを提供して頂いた事、議論した結果を整理して頂いた事、つまり「たたき台」を作って頂いた事は大きな助けとなり、今後の参考にもなりました。

## 「ちからの経営」設計書を策定した成果等

「ちからの経営」設計書を策定するプロセスを通し、会社の事を俯瞰できる社員が増えたように思います。社長が一人で会社の事を考えても、限界がありますので、今回の取り組みは社員・会



空調設備が展示されたショールーム



津福一宏代表取締役社長

社が成長する良いきっかけになったと思います。

また策定した設計書は金融機関や取引先等に配布しました。特に金融機関の担当者からは非常に好意的に評価されており、効果を実感しています。

## これからの「ちからの経営」について

設計書については、今年度もアップグレード（更新）したものを策定する予定です。特に、「業務プロセス」、「当社の強み」、「将来のビジョン」については、配布先の注目も高いため、更に内容を充実させるつもりです。

アップグレードに当たっては、今年度も専門家や中央会の支援を受けながら進めていくつもりです。  
(文責：企業支援室 内田)

### 企業概要

企業名：津福工業株式会社  
筑後工場：筑後市一条1331  
(本社：久留米市梅満町1202)  
TEL：0942-53-0120  
FAX：0942-53-7774  
URL：http://tsubuku.co.jp/

**「ちからの経営」HP：http://chiikiryouku.biz/**  
津福工業株式会社の「ちからの経営」設計書も公開しています

「ちからの経営」設計書については企業支援室（092-622-8780）までご連絡下さい。